

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	福岡療育支援センターいちばん星古賀 放課後等デイサービス いちばん星jump		
○保護者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和6年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	⑫事業所を利用する際に、運営規定、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	・面談等を行い、保護者のニーズや困り感を職員間で把握し、各家庭に寄り添った支援や対応を検討し保護者に具体的に伝えるようにしている。 ・聞かれて分からない事や、対応に困った際には、速やかに持ち帰り、検討しなるべく早く返答するようにしている。	・日々のスタートミーティング、クローズミーティング、会議で保護者からの声を出し合い、職員間で意見等統一を図り、どの職員でも対応が行える様に伝え方等も話しているようにする。
2	⑬父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベント開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がなされていますか。	・学年や家庭状況に合わせながらも、出来るだけ保護者やきょうだい児にも参加してもらえる内容を検討している。また、家族以外との交流を持てるような内容も考え実施を行っている。 ・きょうだい児に対しての困り感等も聞き取り、具体的な対応等も伝えて行くようにしている。	・イベント後に参加者の意見や感想のアンケートを取るなどし、様々な意見をもらいより良いイベント等の開催を行ってきたい。
3	⑭子どもは安心感をもって通所していますか。	・子ども達一人一人の特徴等を把握し、子どもの様子や話に耳を傾け、安心できる環境を整えるように全職員で子どものことについて会議等で対応まで話を詰め、その後、どうだったまで話を行う様になっている。 ・フィードバックの際に、出来ている事、課題になることなども含め、ありのままを伝えるようにし、保護者と情報共有や、学校での様子等も聞きながら一緒に取り組んで行けるようにしている。	・担当者会議等で、学校での様子もより詳しく聞きながら、家庭での様子、利用時の様子を比較し、少しでも統一した対応が行える様により、情報共有を図っていききたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	⑭事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族も参加できる研修会や情報提供の機会が等が行われていますか。 ⑬父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベント開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がなされていますか。	・職員も勉強中であったり、勉強会も年2回ほどの開催になっている。	・年間で開催回数を増やしたり、事前にお知らせをしておくなどの必要になってくる。 ・職員も保護者に伝えるスキル等を身に付けて行く必要がある。
2	⑯子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。 ⑮子どもや保護者との意見の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	・引継ぎや職員間での情報共有が出来ていないことがあり、後から知ることもあり、事後対応になってしまうことがある。	・重要な事柄に関しては、必ず引き継ぐ様にすることと、職員個人で解決しようとせず、必ず持ち帰り職員間で話を行い、どの職員がどのように対応するかまで決めて実施する必要がある。 ・些細なことでも、職員間で情報共有出来るように、職員一人一人が意識を持つこと。
3	⑯事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	・時期や曜日が固定してしまっていて、全利用児が行えていない。	・実施期間等を事前に決めて、保護者へも事前に伝えられるように、お知らせをしていく。